

アジア研究教育ユニット 令和4年度教育研究報告書

事業課題名	海外研究活動基金 KUASU Challenge+2022
代表者名	経済学研究科 久野 秀二
事業概要 (600字程度)	<p>経済学研究科の「東アジア持続的経済発展研究コース」は環境・社会・ガバナンスという切り口と多角的・学際的・国際的な視点から、開発政策・産業政策・経営管理をめぐる諸問題を解決し、東アジア地域を中心とする世界経済の持続可能な発展に資する学術研究者および実務エコノミストを養成することを目的とするプログラムである。同プログラムはその持続的可能な発展というテーマの性格上、研究対象となる社会経済的問題を幅広く解釈し、隣接学問分野の手法を取り入れる学際的アプローチを特徴としており、海外でのワークショップやフィールド調査、出身国以外の学術交流協定での研修やインターンシップへの参加を所属学生に促している。経済学研究科はまた、京都大学ジャパンゲートウェイ構想の一環として、学内競争的資金も活用しながら、学生が海外連携研究者に積極的に研究指導を求め、あるいは海外のフィールドで調査研究活動に取り組む機会を提供することを目的に、海外短期調査助成プログラムを実施してきた。本事業は、それらの成果と経験を活かしながら、海外（外国人留学生については日本国内を含む）での調査研究活動、より具体的には、修士論文・博士論文研究のためのフィールド調査やアーカイブ調査を実施したり、海外の大学・研究機関・企業で研究への助言を受けたりする学生を対象に渡航費・滞在費の一部を補助するものである。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>本事業は6月に入ってから募集を開始し、12月下旬で締め切った。新型コロナウイルスの影響もあり、渡航先が制限される中で、7件の申請があった。申請にあたってはフィールド調査を行う組織や人物への交渉、サマースクールや学会の申込み等、すべてを自分自身で計画し実行することを要求した。審査にあたっては、研究テーマと研究アプローチ・手法の妥当性、研究計画の具体性、フィールド調査によって得られる成果についての見通し、研究成果の将来展望の観点から審査委員会で厳密な審査を行った結果、申請者全員について採択した。しかしながら、派遣先国内での新型コロナウイルスによる移動制限のため1名が渡航を辞退、また必要書類の準備が間に合わずもう1名についても支援することが叶わず、最終的には5名の補助を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 修士1回生 日本出身。チェコ・プラハで開催されたサマースクールに参加した。現地での講義・ディスカッションを通じて得た学びを修士論文執筆に活かす。 ② 博士2回生 中国出身。滋賀でインタビュー調査を行った。本調査で得た結果をもとに、論文を執筆し、学会にて発表予定である。 ③ 博士3回生 米国出身。タイでインタビュー調査を行った。本調査で得た結果を博士論文執筆に活かす。 ④ 博士2回生 中国出身。ポルトガル・リスボンで研究発表を行った。学会で得たアドバイス・気づきを博士論文執筆に活かす。 ⑤ 修士2回生 台湾出身。台北等で修士論文執筆のための資料収集、インタビュー調査を行った。 <p>以上のように、いずれの学生も有意義な調査研究活動をそれぞれ実施できており、研究内容も東アジアの持続的可能な発展に関するものであり、KUASU 事業の発展に寄与することが期待される。</p>